

今、いちばんワクワクすること

本日、前期前半の最終日です。皆さんはこの間、充実した学校生活を送ってきました。5月の体育祭、6月の修学旅行などの学校行事はもとより、日々の学校生活を通じて、それぞれの学年の成長した姿をみることができています。また、部活動などの活躍も目覚ましく、まさに文武両道の富士見です。学校総合体育大会の県大会もスタートしています。体操競技の男子は6位、女子は4位入賞でした。特に女子は関東大会出場権獲得まであとほんの1歩でした。本当によく頑張りました。これからの部・個人も後に続けましょう！

ここではまず、動物言語学者の鈴木俊貴さんという人を紹介します。東京生まれの鈴木さんは幼いころから、バッタやカエル、ドジョウを捕まえては持ち帰り、観察するのが大好きだったそうです。高校生に進学すると、お年玉で買った双眼鏡で鳥の観察に夢中になりました。家で飼う生物と違って、野生の鳥は自らエサを探し、天敵から必死に逃げています。そのことから、生き物のことを知るには、自分が生き物の世界に入っていくことが大切なんだ」と気付きます。生き物の世界に入ること、鈴木さんは、ワクワクする気持ちを抱いたのだそうです。大学でも鳥の研究を続けます。大学3年生の時、長野・軽井沢の森に行き、数か月にも及び野鳥を観察しました。すると、シジュウカラの鳴き声が多彩であることに気付いたのです。鈴木さんは、鳴き声でメッセージを伝え合っているのではないかと考えました。鳴き声を録音し、エサをとったタイミングや、鳥が集まってきた順番などを記録しました。そして、エサを置く、観察する、片付けるといった実験を何百回も繰り返しました。鈴木さんは、研究者として、シジュウカラの研究を続けることになりました。研究の内容は、出版した本「僕には鳥の言葉がわかる」によくまとめられています。シジュウカラの鳴き声は単なる感情表現ではなく、「ヘビ」や「タカ」と伝えたり、「警戒して、集まれ」のような文章になっていたりを証明したのです。実際には200パターンの言葉があるそうです。例えば「ジャージャー」は「ヘビ」、「ピーツピ」は「警戒しろ」、「ヂヂヂヂ」は「集まれ」という意味を持ちます（実際の鳴き声も聞いてみる）。この本はベストセラーになりました。アリストテレス「言葉をもつのは人間だけ」ダーウィン「動物の鳴き声は感情の表出であり、意味をなさない」という2000年続いた定説を覆した研究であるからです。研究の前例はなく、「鳴き声の意味や文法能力を証明するにはどんな実験が必要なのか、自分自身で研究方法を編み出した」と鈴木さんは振り返っています。世界中から高い評価を得て、たくさんの賞も受賞しています。「シジュウカラは僕の想像以上のことをやってくる。だからワクワクする」と述べています。今でも研究は進められています。ワクワクする気持ちでいっぱいなのでしょう。

3年生が6月上旬に修学旅行に行きましたが、この修学旅行は探究的な学びを行うことに大きな特徴がありました。2年生の東京校外学習から継続し、大阪・京都でも企業を訪問し、自分たちの研究を進めていったのです。私も、2つの班にそれぞれ同行したのですが、学ぶことを楽しんでいるように感じました。ワクワクする感覚です。3年生は、進路選択を控えています。試験に合格するための勉強や資格を取得するための勉強が大事であることはいうまでもありません。勉強と通じて、知識だけでなく「考え方」も学びます。これが「人生の土台」になります。ただ、それだけでなく、ワクワクするような学びも経験してほしいです。鈴木さんは「『今、いちばんワクワクすること』を1つ思い浮かべてみませんか？それがあなたの新しい道の第一歩になるかもしれません。」とお話になっています。せっかくの夏休み、自分自身のワクワクを発見する機会になればいいですね。よい夏休みを過ごしてください。